

## 「アクティブ・ラーニング時代の高等学校における『指導と評価の一体化』の可能性と課題」 ——目標と活動の関係を問う

福井県立若狭高等学校 渡邊久暢

### ◎本日議論したい問い

- 高次の学力を育む豊かな学習活動は、どのようにすれば構想できるのか
- その構想方法は、どこまで伝達可能・共有可能なものになるのか

### ◎問いの背景

- 資質・能力に関する議論は進んでいるが、教科の授業はどうしたらもっと良くなるのかが不明
- 目標の精緻化は進んでいるが、豊かな学習活動は目標から直線的に導かれるものではない
- 授業者は、教材選定・発問設定において、「ひらめき」や「直観」に基づき学習活動を構想している  
授業者は、このような「ひらめき」や「直観」をどこから得ているのか

## 1 「アクティブ・ラーニング時代の高等学校における『指導と評価の一体化』の可能性

- 「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力・人間性」を培うことの重要性が広まりつつある。 → 学力構造の意識化への萌芽 = 目標・評価意識の高まり

## 2 「アクティブ・ラーニング時代の高等学校における『指導と評価の一体化』の課題

### 2-1 教師による目標吟味の徹底

- 活動の目的化・・・「アクティブ・ラーニングを取り入れること」が目的に
- 評価のネブミ化・・・レベルに分けた表を作れば「思考・判断・表現」を評価できるという勘違い
- 借り物の目標・・・学習指導要領や指導書等からの引き写しが横行
- 今目の前にいる生徒たちの状況をふまえた目標吟味を
- 「この生徒達がこのような姿になって欲しい」「このようにつまずきを克服して欲しい」といった具体的な姿として、目標の設定を

### 2-2 高次の学力を育むために必要な指導、豊かな学習活動の構想方法の整理

- 教科固有の学力構造の検討が進む
  - ・アメリカでは高次の「読みの理解」に「評価 (evaluate)」「批評 (criticize)」「鑑賞 (appreciate)」といったプロセスが位置づけられる 八田(2015-a)
  - ・日本では、能動的で主体的な世界に対する意味生成という包括的な行為として読みの行為を捉え、そういった読みの行為を育成する指導の研究が進展
- ただし、能力の分析・構造化が直線的に学習活動の構想につながるわけではない
- 高次の能力を培う豊かな学習活動は、どのようにして生み出されるのか

### 3 単元構想のプロセス（読むことの単元設計の場合）

#### 3-1 教材の選定

##### ○発表者の教材選定基準

- ・現在担当している生徒の「心を揺さぶる」か
- ・扱われている語彙や概念のレベルが適当か
- ・幅広い多くの読みの能力の確実な獲得を促すか
- ・文学の場合、主題・解釈の広がりがあるか
- ・評論の場合、知っておきたい重要な概念の理解につながるものか
- ・古典の場合、特に強く学習意欲をかき立てるか

##### ○最終的にどの教材を選択するかは、「ひらめき」や「直観」に基づく

- 「生徒の心を揺さぶる」としか表現しようのない、教材の「面白さ」「わからなさ」「深さ」「鋭さ」を最優先

#### 3-2 学習課題（発問）の考案（「高次の読みの能力」育成の場合）

- 「情景描写から心情を推察する」といった高次とは言えない読みの能力の育成を目指す際には、その能力を確実に引き起こすよう、直接的に学習課題にする

##### ○高次の読みの能力を引き起こすための学習課題を考案する際には本物の文学批評に近い活動を意識する

- ・文学の研究者による先行研究の確認
- ・論争的なテーマを採用
- ・ゼミ活動のような相互批評を可能にする課題を選定

#### 3-3 教材選定・課題設定と目標・評価の関係

- 当然ながら、目標を意識して学習課題（発問）を選定する

##### ○教材選定時と同様、最終的にどの学習課題を選定するかは、「ひらめき」や「直観」に基づく

- 「生徒の心を揺さぶる」としか表現しようのない、「面白さ」「わからなさ」「深さ」「鋭さ」を最優先して課題を選定する

##### ◎本日議論したい問い

- 高次の学力を育む豊かな学習活動は、どのようにすれば構想できるのか
- その構想方法は、どこまで伝達可能・共有可能なものになるのか

### 4 参考文献

八田幸恵(2015-a)「教師の自律的な学習と意志決定を基盤とした目標と評価のあり方—高校国語科教師の場合を事例として—」教育目標・評価学会紀要第25号

八田幸恵(2015-b)『教室における読みのカリキュラム設計』日本標準

渡邊久暢(2015)「『生きて働く質の高い学力』を培うアクティブ・ラーニング」『高校教育 2015年11月号』学事出版